

麻雀



「麻雀しませんか」

と聞くと、我が入来の在住の方々の殆どは

「いいえ」

と独特の抑揚を付けて否定され、怪訝な眼差して眺められてしまう。健全な勤労家庭には無縁のものではと、問い返されているようだ

確かに学生時代、大学の周辺の雀荘にたむろしている連中には眉をひそめたり、徹夜の麻雀に朝帰りのサラリーマンの話を聞けば、夫が無縁であることを幸せと思つて来た。しかし、定年ともなり、毎日が食事の支度とテレビで終わつてしまつこの頃では、即断即決を必要とするこのゲームが何とも懐かしい。と言つて私も大して雀歴がある訳でもない四十年前程前の新婚時代、間借りしていたわが家を訪れて来た私の弟と大家の娘さんとでやったのが

初めてだった。どんないきさつで始めたのかは忘れてしまつたが、大家の娘さんが牌をご持参で、初歩からルールの手ほどきをしてくれた。ところが病み付きになつたのは、真面目な東大生だった弟の方で、私たちはそれきり牌を手にすることもなかった。

サラリーマンの必須条件だからと夫に覚えるよいう中古の牌をくれた人もいた。しかし学齢期の子供のいる団地の狭い部屋では、広げるわけにはいかない。

「ちゃんが大学に入ったら、始めましょつよ」といつていたが、何せ五人の子持ちの私たちである。次々と受験勉強の子が続き、すっかりお預けのまま、何年が経過したことだろう。末っ子の娘が高校に入った時には、なんと次男坊に二人目の孫が生まれるという。中学時代を過ごした国立で、荷物が増ればかりの二Kのマンションに住んでいた次男坊は、ここでは子供が二人になつては狭すぎるし、かといつて広い所に移るにはまだ給料が追いつかないと言つ。

当時、私たちは下の子二人と四人で西新宿のマンション住まいだった。定年後は鹿児島に帰郷する予定であり、それも五年後に控えて、夫の通勤苦を少なくするために、ひとときを都心で過ごすことと想ったのだ。そのために高額な家賃にも目をつぶっていた。

しかし、私の親馬鹿は人後に落ちない。その都心の新宿の家賃で、郊外だったらもつと広いところか借りられるだろうから、一緒に住んでやれば、彼らは狭さの解決にもなり、自分たちの家賃分を貯金することが出来て助かるのではと考えついた。思いつくとすぐに実行してしまうのが私で、夫を説得して、新宿より二万円ほどは高くつくが、府中の奥まった所に二階建ての建坪四十坪の貸家を見つけ、さつさと新宿を引き払ったのだった。

夫の通勤時間は伸びてしまったが、以前の八王子よりは近いということに我慢してもらった。被害は近くの中野にある高校に入学したばかりの末娘だったが、私の決定にはいやもあつてもなく満員電車の通学となった。

やがてそこへ次男坊夫婦と二才の男の子が移って来た。そして三月月後に、女の子が生まれた。翌年は三男坊も会社勤めとなった。ところで次男坊も嫁さんも麻雀好きであるいつの間にか三男坊と私に加わって休日の土曜の夜は、麻雀が開帳が定番となった。夫は時間が勿体ない、本を読んでいる方がよいと言つて加わらない。

先ず、二人の孫が寝静まったのを確かめて隣の間で、音を殺して牌を並べることから始まる。ルールや点数の計算は全て次男坊任せ。ポンばかりする私は小馬鹿にされながらも我が道を行くのである。途中何度か孫が夜泣きをする。その度に私たちは、パタパタと牌を伏せて、音を絞ってテレビのスィッチを入れるのであった。やがて何とか寝かしつけた嫁さんが戻って来ると牌を起こして再開である。次男坊夫婦がちゃんと記録を取っていて、最終的に一番負けた人が二百円を貯金箱に入れるのが決まりであった。溜まったお金は何に使ったのか、皆で鰻重でもとつて食べたのかもしれない。やがて次男坊は、福島に転勤となり、ひつちやか

めっちゃかに賑やかだった生活も思い出になつてしまつた。

「昨年、入来に戻つての夏休み、長女夫婦が、中一と小五の孫をバンに乗せてやつてきた。家はまだ完成していなくて、畳の部屋も仮の間しかない。落胆させるのも残念と

おばあちゃんがマージャン教えてあげようか」と言つてしまつた。前年バンカーゲームを教へて、この親子にバンカーブームを起こさせてしまつた前科のある私の一言に、くりくり頭の体格満点の孫たちは大喜びである。早速顔を曇めている娘をよそに、婿さんを引き込んで、怪しげなルールの手ほどきが始まつた。

昨年の夏、戻つてきた娘が開口一番

「ママのおかげで、二人ともパソコンで麻雀ばかりやつてるんだから」

とのお小言である。でも明るく仲良く過ごしているのだから、そう言いながらも満足でもないんだと思つた。

今回の帰郷は、次男坊一家と末娘の帰郷と重なつ

ての大人数となつてしまつたから、騒ぐことの楽しさに、麻雀の影がすっかり薄くなつて、それはそれで喜ばしいことだつた。

孫たち帰郷の台風一過のある日、韓国で生産技術指導をしている末弟がやつて来た。韓国製のパソコンの宅急便も届いて、新しい性能のを買ったから中古のそれをくれると言つウインドウズ3.1の他に、麻雀と囲碁のソフトが入つている。

以来余程寒い日以外は半チャンやつてしまつ。機械はお利口さんで、クリアしない限りきちんと点数を合計してくれる。初めは振り込んでばかりだったのが、最近は連日大勝で今のところ48戦で43.5点、次点の「甲斐麗華さん」の7.2点を断然抜いている。他の七人は大きくマイナス点である。

でもやはり生身の人間相手にやりたいなあ。お金を賭けるのは怖くて厭だけど。父祖の地が人吉でいらつしゃる心理学の詫摩武俊博士も母校の講演会で麻雀は老化防止にいいですよ」とおっしゃっていましたよ。精神年齢のお若い方々、この指止まれ。

平成8年1月 にしき江